



雲雷卦
 降雷雨
 念維
 應時

雲
妙
問
雨
夜
月

四

^ 13
 2897
 4



門 へ 13
號 2897
卷 4

本

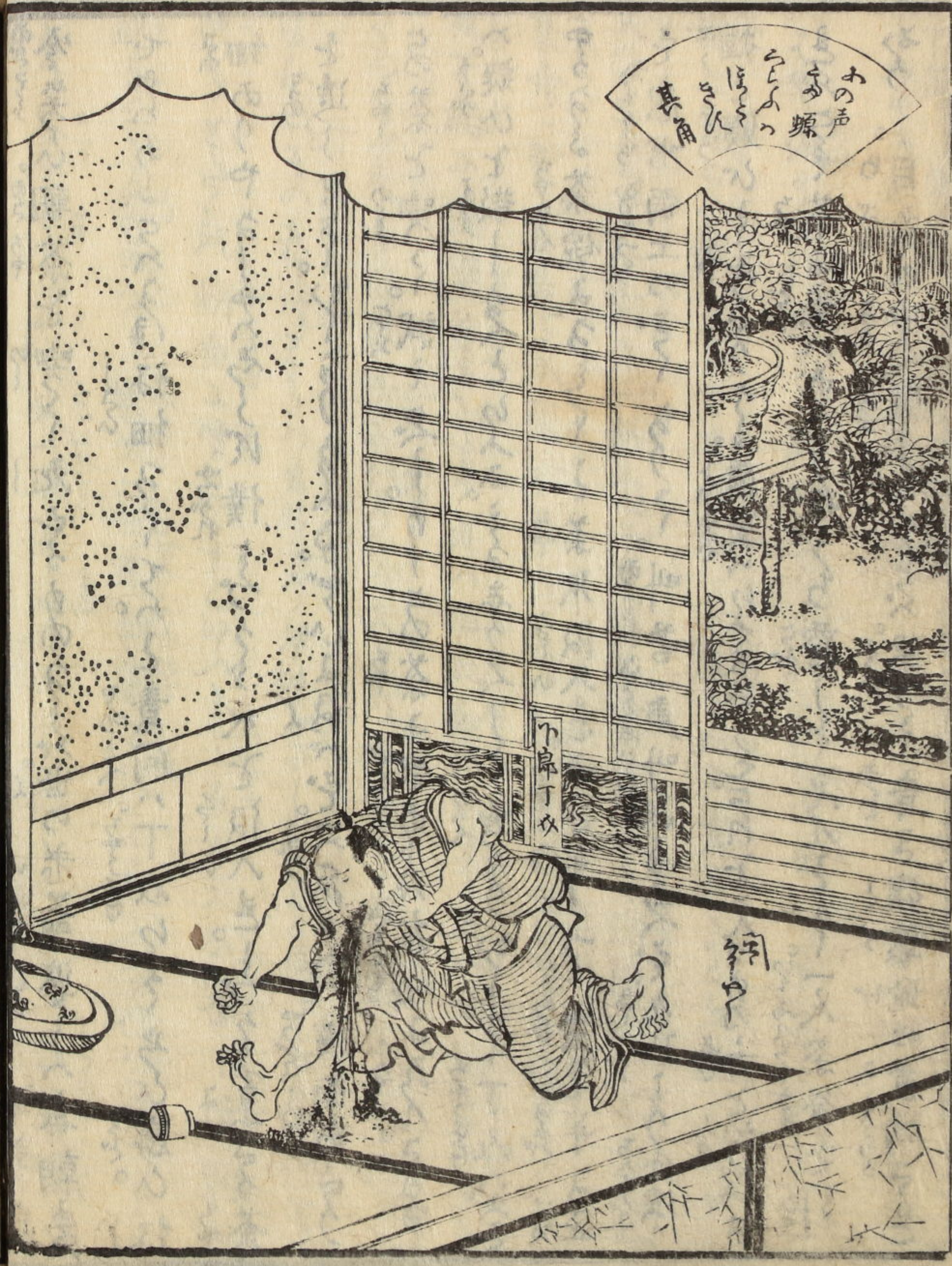
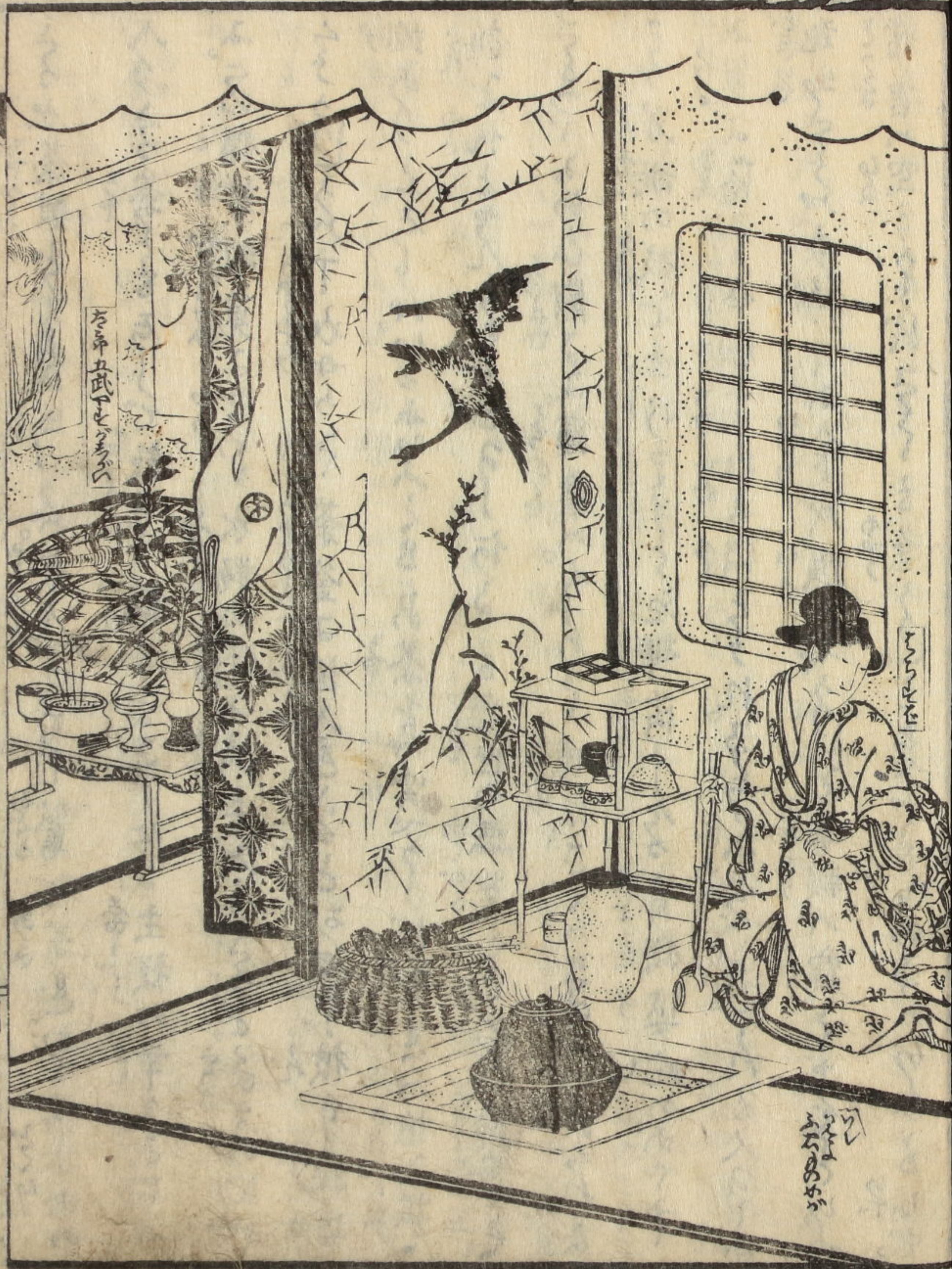
雲

宮

被^け拾^りし。衣^い服^{ふく}と被^か更^へ丁^{てい}ぬと^とお^おろ^ろそ^そ名^な寺^{てら}に^に詣^より^て群^{ぐん}集^{じつ}
ふ^ふ押^{おし}隔^へら^らま^まつ^つ法^{ほふ}座^ざの^のほ^ほろ^ろ入^いり^りも^も著^つま^まど^ど。人^{ひと}の^の後^ご方^{ほう}よ
あ^あり^り。つ^つつ^つと^と彼^か雷^{らい}神^{しん}法^{ほふ}師^しと^とえ^える^るふ^ふい^いぬ^ぬ。秋^{あき}神^{かみ}崎^{さき}よ^よ。
假^{かり}初^{はつ}よ^よ一^{いち}夜^やさ^さあ^あつ^つさ^さら^らる^る。西^{さい}管^{くわん}法^{ほふ}師^しあり。さ^さり^りら^らみ^みと^と胸^{むね}打^{うち}
さ^さら^らけ^けど^ど。め^めの^のり^り入^いり^りも^もあ^あら^らね^ねば^ば。あ^あの^の日^ひに^にま^まり^りく^く立^たち^ちぬ^ぬり。
西^{さい}三^{さん}日^{じつ}の^のち^ち。又^{また}夫^{また}よ^よ告^つぐ^ぐ。名^な寺^{てら}へ^へ詣^より^て人^{ひと}と^とま^まる^ると^と。さ^さら^らあ^あら^らえ
ら^られ^れと^と許^{ゆる}さ^さど^ど。ま^まが^が身^み近^{ちか}は^はい^いぬ^ぬと^とれ^れ固^{かた}く^く裁^{さい}ぎ^ぎ。勤^{きん}仕^しの外^{の外}
入^い放^{はな}書^{しよ}山^{さん}さ^さる^るら^られ^れと^とい^いひ^ひさ^さ。ま^まが^がま^まら^られ^れら^ら入^い勢^{せい}り^り居^いる^る
ふ^ふい^いの^の婦^ふの^のり^りと^と。ト^トま^まび^びの^の彼^か寺^{てら}へ^へ詣^より^ても^も。ま^まが^がま^まら^られ^れら^らま^まら^らる^る
ま^まら^らる^るま^まら^らる^る武^ぶ章^{ちやう}が^がら^らふ^ふ本^{ほん}人^{にん}日^{じつ}も^も遠^{とほ}く^くと^とあ^あら^らる^るふ^ふ。今^{いま}ま^ま
一^{いち}行^いき^きる^る。と^とい^いは^はら^らあ^あら^らる^る。蓮^{れん}葉^{えつ}の^の暎^{えい}と^と揚^あげ^げる^る声^{こゑ}を^をう^うた^たい^いま^まら^られ^れば^ば。

雲色 卷三

かゝるまじき牙と怕まぬぞ。彼が家か彼と守る神あり。家
の我をもち神あり。彼りりづるが家の事か管さるん。か牙近
曾入りし。瘡の發るうら。そのを神僧の加持と受る。病苦を助ら
ざる。とや人ののと妻に死しても。牙のりひつるすのちりぬふ。さる損
りげあら夫ありせむ。つまそひ居るともそのうひや。女一人人よ
養ふれば親族ふさへ蔑られ。その煩悩とまるとりよとて。或は罵り。或
は打はら。怒むれども。ちか五の氣を忍びる。さうの回答せむ。
さればとて夫の許さる。彼寺へのゆき。蓮葉人
も是む。か若しは日とあつ。既よ跡生のも。めよあつ。二日の夕ぐれ
ふ雛棚へ松の枝を挿んとす。ゆかり庭へ立出。臂ぢうる枝を
る茶。丁と折る。ふ青。猪婆蛇。その枝よ登る。居るさ。ち
驚とる。蓮葉がまえへ。さうくと走。木ま。阿呀と叫びて。おる
枝とら。揮るよ。猪婆蛇の笥の録。打中ら。仰さ。ふあつて
流る。さうと。さうと。蓮葉の。杖。入。か。花と打
捐。裳。襖。袖。を。ち。拂。ひ。と。真。く。内。入。ぬ。か。く。と
結。朝。奴。隸。丁。奴。ほ。の。う。た。う。り。起。出。る。茶。釜。よ。水。と。汲。入。ま。茶。を。煮
飯。を。炊。き。ま。ど。と。る。音。か。や。う。あ。う。が。身。五。臥。房。と。ま。う。午。火。洗。ひ。
や。雪。の。山。の。雪。小。餅。飼。を。り。窓。の。戸。引。明。つ。庭。の。松。檜。と。ま。か。え
居。る。よ。蓮。葉。入。り。だ。と。さ。う。と。後。一。朝。も。夫。と。も。ふ。起。る。さ。う。た。れ
ば。の。目。も。熟。睡。し。り。さ。う。と。寤。ど。丁。奴。ハ。茶。と。煮。果。る。それと主人
よ。進。し。と。さ。う。と。を。師。五。ハ。茶。碗。と。堂。よ。の。さ。う。と。さ。う。と。げ。み。飲。み
ま。と。ん。え。急。地。茶。碗。と。碓。と。投。一。声。高。く。叫。び。つ。血。を。吐。き。あ。び。し。



くるが。茶殻ちやくがらとくもふ出しゆくば。衆人しゆじんとく驚おどろ死あざは。是こゝわく毒虫どくちゆうの
 へりくる茶ちやもちりぐで飲のり。飲のりもこゝなる。主役しゆやくの幸さいわいうとあふ
 みの猪婆蛇とらび。覓みは落おちく水瓶みづかみの中なかふ流ながれ入いりくると。まへのにめ
 くらりりくべ。丁奴ちやうなんやぐ。茶釜ちやくまは汲くり入いるとおぼし。彼かれり猪婆とら
 蛇びありとくらり。いらふ入いりくる茶ちやを啖くべうくば。かまは推おしと恨うらみ。
 誰たれと仇あだとせんうとがさう。何なにも過世くわせいの悪業あくごうとと。ちひ掃あきめへと。
 さまぐあらしむ慰なぐさする。蓮葉れんえつへんゆめく。曉あけぼのぬ。さくらさの人の夕ゆふぐれよ。
 りが才さい桃とうの枝えだをさゆおさうと。揮う落おし。ける青猪婆あまとうら蛇びのあやや
 小覓こみは落おちく。今朝けさ丁奴ちやうなんは汲くり入いりくる。くらふ及およぶ。それと入いりくる
 蛇物へびものくらり。ゆめかみ余あま限かぎとさうしと。果報くわくわうハ寢ねくまをくらり。
 常言じやうげんハ空くうくくら。さくらも危あやうし。とどくとも。そのふらりひも出いで。

夫暴とらは又またさうりく。子ことらひののもうを家のいへにほきたと察さつりぬ。差夫さしとら
 何なにとせんとう口くち説せつ入いりくる。の袖そでの雨あめ暗くらく。まじりく。さやかりたり。
 ぬいてあるべさうあし。ぬば。人ひととめり。主君しゆきん木賀きかぶのへ武泰ぶたいが頓死とんじ
 のうをさえあげ。是こゝ彼のか扶助ふじゆをほす。野の道みちあつ。形かたちのどく
 ちひ。丁奴ちやうなんが屍しかばねハ。それが由縁よしゆゑのあのみ。さうせうとさる。小木賀こまか
 光瀬みつせも。ちひ。五ごを惜おぼしむ。ちかく近江おんみへ人ひとを走はし。二ふた郎らう
 武章ぶしやうをゆびうて。あ督あつのちひ。ちひ。と叮嚀ていねいは。さえ。ちひ。ちひ。
 けま。蓮れん茶ちやハ。それ。のちひ。あし。ひも。くけ。む。夫とらが死ある。を。さの。幸さいわい
 ちひ。の。便びん宜いと。ゆき。西さい登とうと。ちひ。家いへは。ゆび。郎らう。過あやし。秋あきの。え。ちひ。
 ぬ。髪かみを。清きより。慰なぐさむ。ちひ。と。ちひ。く。それ。と。ちひ。ちひ。近隣ちかたに後ごより。
 ちひ。ちひ。名な寺てらの。雷らい神かみ上かみ人ひとと。ちひ。ん。ハ。ちひ。ちひ。稀まれる。善ぜん知識ちしきハ。ちひ。ちひ。

とぞ。かゝる名僧の引接あり。亡靈もいづゞ伊果を記さる。
 翌へもや初七の速夜よりして。彼僧と蓮華が意中
 待しつゝびてん中といふ。人ごまらさしをゆづ。
 の人といひもけを各りると。一人は下郎とて
 名寺へつり。縁由といはせり。その時雷神法師の奸計をりき
 忽地山院の住持とあり。白雲黒雲ホともみ昼は口は弥陀を
 稱夜の腹は酒肉を葬り。志のびくは非法の教衆をりとせし。
 ある日人來り。木賀光補が赤裳伊原方郎五武泰が後家
 亡夫のよ翌の夜招結せしほし。その言詔りと叮嚀の
 雷神伊原方郎。木賀光補の此よりふる武士。今その
 郎黨は因巴主の光補は續るふと。と源念ゆ

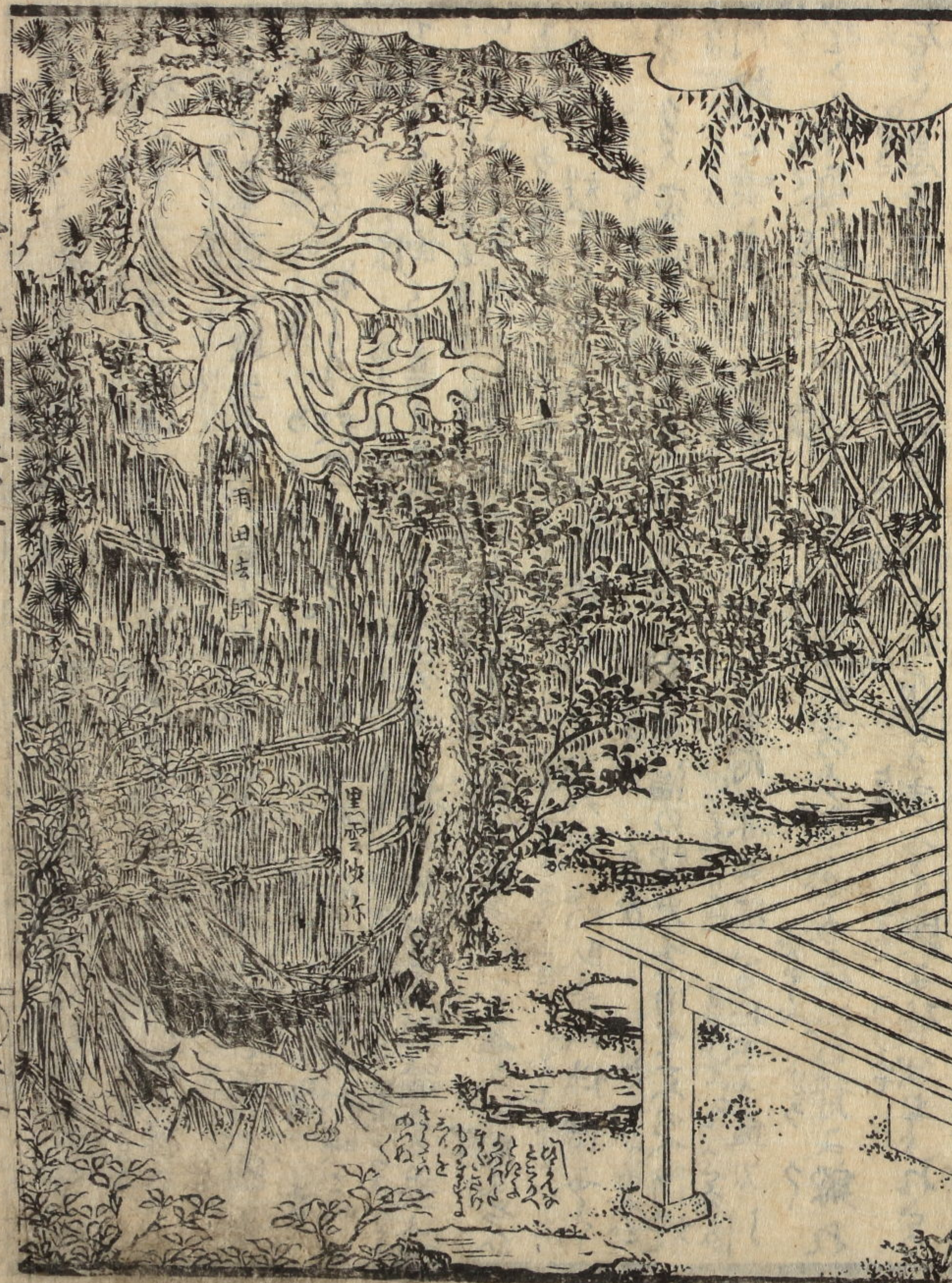
べたりを考ふ。その人をぬらぬ。行は蓮華のよう。
 して次の日披此の人酒飲せ。飯をべさる。
 此の果も。さく。落ちる。衣裳を被
 衣。彼人返ると。伊原二郎。此章も。
 年の冬。信二赤塗通が鹿鹿も。寛狂の總領を脱す。
 らる。その人の陰を察り。観音寺の塔中。伴は。
 その恩惠を感謝し。只け。牛を賣る。賊僧を露出。妻
 のえはが。寛を雪だ。弟のぬき衣を乾べ。近國へ。
 ろ。を竭して。備歴と。その往方。
 冬。春も二月。既。貯禄。
 う。底食。兄。縁由。

風志を果さんめのとと尋思し。結生のちどりぬ近江海を立出
 つ。夜を日は継ぎ走りたる夜。三月七日の夕と此の底倉へま
 僅よ一里むくりと隔る。山里をぐる来より。暮ぬ先ふとやへば
 ころ頻ふ忙しく。こゑまぎれ村稍る。亦ある椋の梢よ鳥群居
 て。のとかがまよしく。声の竹とまよ。耳よさうり。入相の鐘も。さ
 ようらうら悲しく。忽たよ肉動た。神も引入る。やうよあは
 えし。うば。あざ。彼亦をええりつ。あまのり。子どもらガ
 うよ。ようらぬみや。出来たん。又まが兄の家ふ。幸あたるや。あえ
 さく。もたさう。ぬ鳥の啼まう。と。さうら。ぐら。又連忙しく
 し。と。だ。ゆ。く。日。ハ。既。よ。く。且。て。天。又。結。陰。七。日。の。月。ハ。影。も。え。せ。ぬ
 と。去。年。来。一。門。の。権。松。も。七。松。居。大。が。面。敷。く。葉。を。又。び。立。り。

ち。武。章。つ。と。入。り。あ。ま。り。い。う。よ。ま。が。兄。ハ。恙。あ。く。か。ら。さ。る。致。こ。ら。一。糸
 と。そ。糸。り。ゆ。と。心。門。ハ。蓮。葉。の。声。を。の。と。ゆ。ま。く。蒸。襖。の。回。り
 一。歌。え。周。章。く。套。房。の。ま。ふ。支。り。ゆ。え。猛。よ。紅。粉。ハ。洗。ハ。あ。じ。
 喪。服。を。被。更。く。や。く。よ。さ。ら。出。叔。ハ。本。あ。ひ。つ。と。ま。ま。こ。ま。え
 と。誘。引。あ。も。武。章。ハ。嫂。ガ。衣。役。の。しろ。の。三。一。を。え。さ。く。さ。て。あ。ら。が。兄。ハ
 世。々。ま。め。ひ。よ。れ。と。猜。し。あ。が。ら。端。あ。く。も。同。じ。草。鞋。を。解。と。さ。く
 附。ひ。せ。り。寒。暖。を。速。又。ま。が。兄。と。ま。ま。へ。る。縁。衣。え。は。が。横。死。子。と。も
 ら。が。る。や。ま。え。ま。く。と。れ。バ。蓮。葉。の。あ。ら。び。く。目。を。押。拭。ひ。ま。ま。の。兄
 牙。ハ。過。ぎ。や。く。あ。ら。さ。る。あり。叙。く。寛。柱。ハ。係。り。て。妻。と。喪。ひ。子。ハ。別。れ
 ち。う。ら。草。み。の。と。く。ま。ま。と。さ。ま。ま。ま。ま。の。夫。ハ。郎。の
 朝。頓。死。く。果。の。ひ。ぬ。その。あ。ハ。如。此。く。箇。様。く。さ。り。と。ま。青。猿。彼。女

蛇の。丁ぬが。から。物。武者。果。拘。
打。哀悼。涙。堰。ど。は。く。は。兄。最期。為。体。疑。た
も。あ。は。が。母。あ。が。同。締。ふ。それ。う。と。あ。ふ。は。あ。と。い。ん
かく。せ。ん。と。道。と。が。う。の。う。ろ。が。ま。入。も。て。本。至。る。の。い。ま。休。と。秋。心。傷。中。
く。あ。う。り。ウ。を。か。く。て。武。章。ハ。中。知。侯。を。拭。ひ。を。め。く。蓮。葉。が。頃。日
の。嫌。う。る。べ。さ。を。喝。一。を。悼。み。涙。え。又。数。回。嘆。息。し。く。あ。と。も。あ。う。じ。に。
兄。の。七。日。の。お。ひ。た。や。今。宵。初。七。の。逮。夜。と。い。せ。あ。そ。夜。と。も。あ。回。向。ひ。
さ。わ。と。ら。ひ。か。け。て。ほ。と。ゆ。火。立。も。力。あ。く。あ。る。家。廟。の。亮。隔。も。香。の
煙。は。黧。り。と。ど。ら。う。を。杖。原。の。席。の。位。牌。よ。う。ち。對。ひ。ん。と。限。り。火
う。た。に。流。獨。名。の。声。幽。あり。借。亦。は。雷。神。法。師。ハ。黒。雲。を。お。く。外。面。は
立。在。ず。が。蕉。火。を。あ。げ。さ。う。門。柱。ま。る。表。札。と。仰。が。騰。つ。と。こ。う。と

り。よ。黒。雲。や。が。り。ま。り。入。り。寺。名。寺。來。臨。り。と。又。門。も。蓮。葉
ゆる。び。ら。う。慌。お。め。と。い。は。い。ど。も。な。め。り。は。し。う。出。迎。へ。つ。客。房。は
秀。引。黒。雲。を。よ。の。法。方。お。や。う。と。茶。を。ま。め。う。ち。合。咲。と。い。や。う。の。い
猶。よ。ま。じ。入。ま。う。ぢ。り。よ。う。ち。あ。う。い。ら。う。が。本。ぬ。ひ。つ。も。ぞ。茶。を。と。い。声。も
面。影。も。あ。く。づ。ら。い。ど。の。婿。婦。ハ。神。崎。さ。う。あ。ひ。え。つ。蓮。葉。と。い。や。い
ふ。も。雷。神。忽。地。胸。う。ち。ま。り。だ。ら。う。ら。う。も。同。う。の。う。言。語。と。い。や。ま
あ。う。う。同。を。斜。し。う。と。え。れ。を。え。ま。ま。蓮。葉。も。又。物。り。ひ。く。げ。ま。て。終。い。え。
唐。福。の。方。へ。退。お。う。あ。や。う。稀。る。便。宜。を。ゆる。彼。人。を。な。ま。え。ん。と。あ。や
う。武。章。ら。う。ま。来。り。ま。り。ら。う。ち。ら。ひ。て。の。相。語。が。は。慰。よ。え。ん。を。匿。さ。る
あ。う。り。ま。ん。と。孝。思。し。う。家。家。の。ち。う。こ。う。る。襖。の。間。は。顔。こ。う。入。こ。叔。く。
け。身。も。去。年。の。冬。指。ゆ。ひ。う。り。寺。名。寺。よ。此。度。入。院。を。ゆ。ひ。つ。雷。神。上



西田法師

里雲波

あまのこゝろ
あまのこゝろ
あまのこゝろ
あまのこゝろ
あまのこゝろ
あまのこゝろ
あまのこゝろ
あまのこゝろ

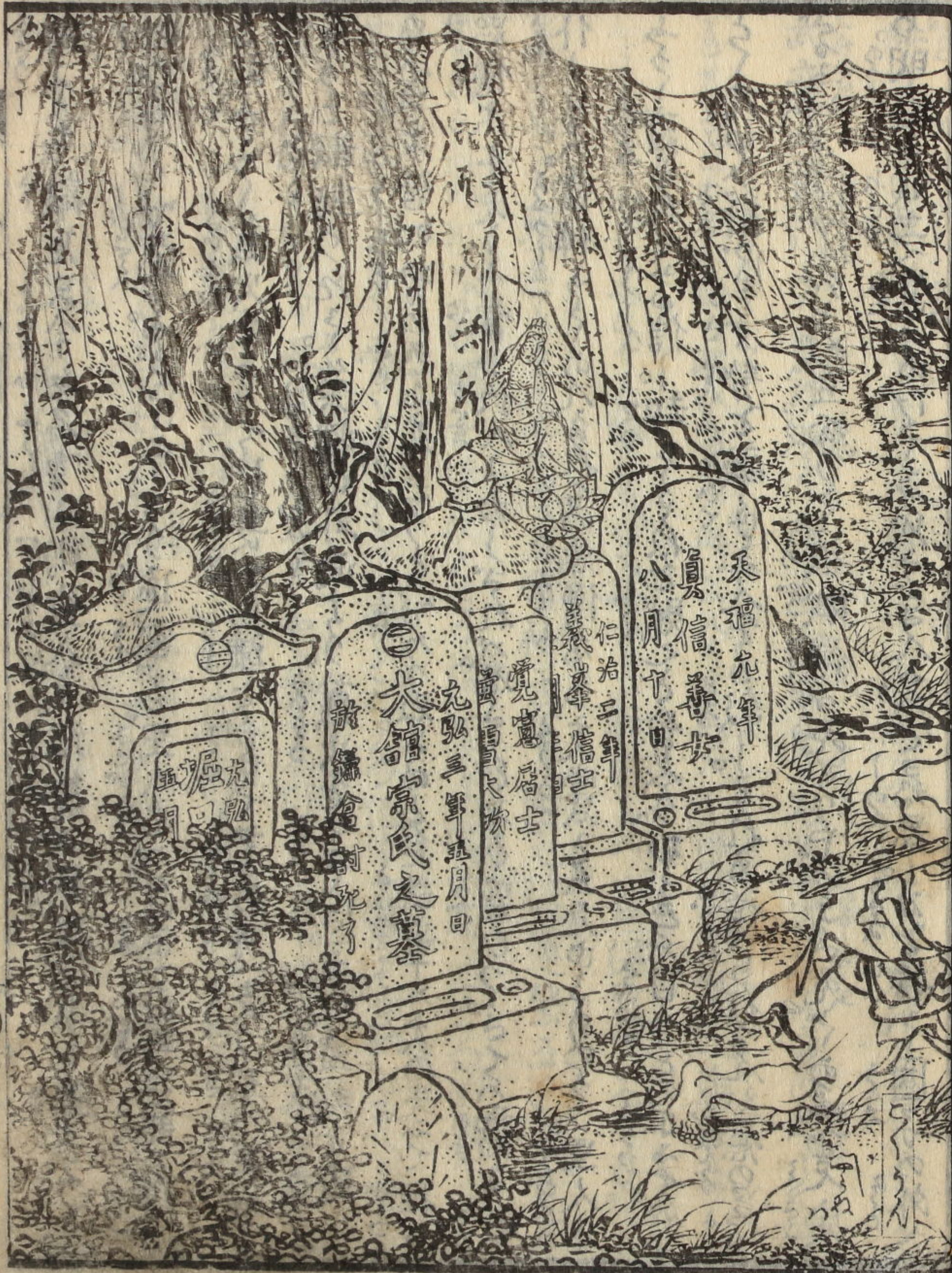


切られ
きりきり
きりきり
きりきり
きりきり
きりきり
きりきり
きりきり

あまのこゝろ
あまのこゝろ
あまのこゝろ

高杯は菓子と盛危福よりりくあるとく。ふつたまき引用。襖のく
 黒雲が、暮直は透出。火武章の逃げがと花うつろ丁と破る。團と
 前て蓮やぶが、瞬より乳の下きく。ぞくぞくどんど破さげられ阿呀と叫び
 て仰さるふ倒る音とわうともの不庭も撞と地音。跳踰る築牆
 のあまゝ一一声呵いと公ふ正の雷神う。それうあうぬうあふた團まぢひ
 惑ひく。嫂とらぬ屍を踏越く。さく只今破臥る伴僧ま
 ありるる家療の火燈を借りてやえん危福の燈火をりて本多阿嫂
 阿嫂と喚らるまどと煮るをれいともな母。赤は赤る壯士が血刀引
 握る外面へ喘くぞ追くゆ。雷神のあをたすでも屏風の背に躲れ
 居く息もどどが蓮やぶがあて叫びるまきく。既破伏せられる

彼婦人多くと措く。まよふと失ひ武章の黒雲を追蒐く。外面へ
 まり出らるる隙まきく。忙しく脱まきつとあやう牛の賣るる。かく
 發覺てら。そのあは足をとめがじ。怪癡ある奴が撞見く。宝の山は入りあがら
 んを空くくともるりよとをた團は紛れく。殺らるる。武章
 の黒雲を追蒐本らる。遂は墓所は追逼り。逃がくと打てかれ。黒雲
 声をより立ち。賊ありくと呼る。視よ。白雲は。楳の桿棒を横く人
 火弁男をねくまきく。出る。伴の男の武章が岡を刀の光は驚馬を怕ま
 忽地よ遠巡り。藪の中まど躲る。それ二人の悪僧が。あはえある癖者
 らんが物ともせど防を戦ひ。黒雲のつらる。卒都婆を抜り。白雲の梅を
 うら揮左右より引とえん。薙仆さんと聞ら。その隙は雷神の育あ
 金をとる。お囊の内ふ。又慌く逃去しが。はらうらうら。黒人のにぞ



顔より敲れ只今寺に剛盗入り。防禦は淋はどろくおくれり。
 救ひぬと覺え。やがてとらへり。逐電と里人ホハ。其声は驚れ寤て床破
 と紀ゆり。蕉火をうりて。長柄の鎌を合ひ。寺へまゐり。其処
 とうと散動りたり。梁檣の外面より。蕉火をさくは。めげ。盜賊を
 のふる衆皆加勢のなるまき。とむりぬ。そのとれた武草ハ火の光にて柱
 悪僧ホをえり。不當の仇人よ。あしづれば。やがてむむむ。さる。嚮は
 仆しる。雷神も。あん。その悪僧も。支堂とらん。ゆ。りの。里人
 ふう。感んて。信。却。を賊こと。あ。か。目今との。あ。ひ
 とく。九ひ。解。は。勢。と。敵。子。人。を。救。し。それ。も。傷。ら。れ。ん。慮。の。さ。か
 がる。あ。ひ。立。ぬ。り。彼。賊。僧。が。死。せ。り。や。い。も。死。ぐ。あ。を。見。定
 め。明白。は。領。主。へ。あ。げ。り。あ。と。思。い。力。を。援。け。園。子。の。外。へ

跳り出ると悪僧ホも。その奉事ハ今とちうつ引続々追入るとせむじへ。
 武章ハ角門よりさうさうさう。さう。五が家よ立ぬ。よ客房ハ。暗く音
 もせむ。さ。不審とあひ。内に入りて。あ。ぐ。蓮。茶。を。ひ。ぬ。お。ろ。
 あ。も。れ。り。出。る。あ。と。さ。う。さ。う。あ。も。れ。り。か。も。り。捨。撈。り。つ。庵。溜。の。燈。火。を。ひ。お。ろ。
 う。は。ま。り。躓。ま。り。人。を。え。り。雷。神。あ。あ。び。て。嫂。連。茶。を。ひ。お。ろ。
 ひ。あ。と。驚。れ。り。燭。を。撲。地。と。り。は。せ。り。又。蕉。の。周。は。う。り。つ。あ。ら。う。て
 や。と。嘆。け。り。さ。う。と。さ。う。と。燈。を。う。り。せ。り。さ。う。と。袖。か。は。り。つ
 滅。せ。れ。り。さ。う。と。再。び。三。び。り。つ。や。や。と。灯。と。り。連。茶。を。抱。き。起。て。
 さ。あ。ぐ。の。勳。り。さ。あ。の。深。癩。さ。あ。既。に。締。ぬ。れ。り。殺。さ。う。も。あ。ら。び。を。
 忙。然。と。り。つ。あ。と。天。を。う。り。仰。ぎ。嘆。息。し。つ。あ。ら。び。が。さ。う。か。く。さ。あ。は。落。
 今。下。る。世。に。あ。ら。び。が。貪。り。中。と。う。と。喝。し。さ。う。と。養。給。一。牛。四。息。の。妻



えらく蒼天に飛揚し。雲は紛れ失ふなり。武草はあがり
 くら。瞻を覚ふと。今ハこう安し。あらくは驛だる
 気色もあ。さぶ近隣は告ぢる。領主へ祈をせんて
 直は外面は立出たり。憐べし。武草ハ朴實なり。寛抚ハ世を
 狭く又恨く。嫂を殺せり。宜き宿因の業果さす。このハ蓮花
 ハ日本夫を侮りて。そめ武草ハ調戯し。ゆきび雷神は環會し。
 不良のころ狐發せし。天その不貞不義を憎く。忽地ハ罰し
 ろり。故あるる。雷神が墮落し。彼が奸計より起る。又
 の毒婦。みづる。夫を毒殺せんと。さる。さる。秋婆地す。
 さる。さる。死したる。その罪脱れ。さる。似たり。さる。彼
 幸あり。武草ハ殺され。意中の波計は。及ぶ。と。その。

汚し。れ。を。実ハ。幸。又。武。
 既ハ。羊。及。似。淫。婦。を。娶。り。
 面。吐。れ。禍。遠。は。身。及。り。夫。婦。ハ。人。の。大。倫。を。
 思。慮。あ。る。度。も。固。辞。べ。た。玉。を。抱。く。罪。あり。
 常。言。を。さ。う。ざ。う。又。雷。神。ハ。奸。惡。を。逞。く。里。人。を。迷。け。
 一旦。浮。雲。の。雷。を。さ。う。と。り。く。の。く。福。も。さ。う。武。草。ハ。者。破。せ。
 喪。家。の。物。と。ま。り。亦。は。神。仏。の。罰。を。天。細。終。ハ。漏。こ。
 今。ハ。四。人。を。論。ぶ。る。と。た。ハ。武。草。の。結。罪。も。罪。あり。
 過。世。の。業。因。も。た。は。さ。う。と。り。く。善。報。も。た。し。
 その。子。の。く。至。孝。を。想。家。を。起。さ。る。疑。ふ。べ。く。善。も。
 善。も。う。り。と。の。せ。悪。も。う。り。と。の。せ。

ううーの人のひまも。えうままど。

雲綺問答
 問
 答
 ... (Faint bleed-through text from the reverse side of the page) ...

雲綺問答 夜月巻之三終 [本意]

